

## 児童・生徒の自転車事故抑制を目的とした心理的要因の研究：運転ならびにヘルメット不着用の背景分析と教育指導者に関する一提案

谷口, 嘉男

<https://hdl.handle.net/2324/4475205>

---

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (学術), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏名	谷口 嘉男			
論文名	児童・生徒の自転車事故抑制を目的とした心理的要因の研究 ～運転ならびにヘルメット不着用の背景分析と教育指導者に関する一提案～			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	志堂寺 和則
	副査	九州大学	教授	川邊 武俊
	副査	九州大学	准教授	大枝 良直
	副査	金城学院大学	教授	北折 充隆

## 論文審査の結果の要旨

自転車は運転免許が必要ではなく、子供から高齢者まで誰でも手軽に利用することができる乗り物である。近年では、脱炭素化や健康増進の観点から、自転車利用は各地で推進されている。しかし、その一方、自転車が関与する交通事故は社会問題ともなっており、自転車条例を制定する自治体も増えてきている。

本論文は、自転車による事故が多い年齢層である、児童・生徒（小学4年生から高校生）の自転車利用や教育指導に関する質問紙調査に基づく研究であり、以下の点で評価できる。

第一に、小学生・中学生・高校生を対象として実施した質問紙調査において、自転車運転に関する意識、交通法規の理解度、日常生活における生活態度における特徴やそれらの関連性を明らかにしたことである。主として学年進行と性別の観点から分析がなされているが、いくつかの重要な知見が得られている。たとえば、本来、学年進行とともに交通法規に対する理解が深まっているべきであるにもかかわらず、調査の結果は必ずしもそうっておらず、現在行われている学校での自転車教育に問題があることが示されている。また、これまでの交通教育においては、女子よりも男子のほうが危ない運転をすると見なされていたが、高校生では男子よりも女子のほうがより強く衝突危険を感じていることが示されており、ここでも現在の教育についての見直しの必要性が指摘されている。さらに、危険な自転車運転をする者は実際に衝突危険に遭遇することが多いと報告しており、交通場面以外の日常生活においても社会的に望ましい行動を行うことに対する意識が低いことも示された。

第二に、ヘルメット着用と交通行動等との関連性を明らかにしたことである。ヘルメットは自転車乗者の頭部を保護するものであるが、その着用の重要性はまだ十分には認識されておらず、着用率が低い状態となっている。調査の結果、学年が上がるについて、交通に関する行動は危険な行動が多くなり、ヘルメット着用も少なくなることが示された。また、ヘルメットを着用することが少ない群ほど、おしゃれに関する関心が高いことや、他の交通場面でも危険な行動を行っていることが示された。この結果を元に、さらに調査を重ねることで、ヘルメット着用を推進する施策立案の手がかりが得られることが期待できる。

第三に、学校における自転車教育者についての提案を行っている点である。現在、学校における自転車教育は、学校教員が担当するか警察等に依頼して実施してもらっている。筆者は自動車教習所指導員がこの任に当たることを提案している。この提案のために、指導員の教育に対する考えや運転行動等についての調査検討を行っている。この提案に対しては、今後、さらに様々な

検討が必要であるが、調査は最初のステップに当たるものとして評価できる。

以上要するに、本研究は、児童・生徒の自転車事故を減らすために、児童や生徒の自転車運転ならびにヘルメット着用に関する心理的背景を分析し、さらに自転車教育指導者として自動車教習所指導員を活用することの可能性について探ったものである。その成果は、交通科学ならびに今後の交通教育に資するものであり、価値ある業績である。よって、本論文は博士（学術）の学位に値すると認める。

#### 最終試験の結果の要旨

本論文に関して調査委員から、日常行動と交通行動の関係性や家庭での自転車教育、自転車の乗り方に関する性差などについて質問がなされ、いずれについても著者からの確な回答が得られた。また、公聴会においても、出席者から種々の質問がなされたが、いずれも著者の説明によって質問者の理解が得られた。以上の結果より、著者は最終試験に合格したと認める。